

連載

ホームページで情報発信

M
H
A
K
M
E
N
G
P
A
G
E



Netscape で使えるタグ

今回は、基本的なタグについての話の続きです。その前に少しだけ予備知識を。

実は、WWW ブラウザーの種類やバージョンによって、使えるHTML タグの種類が多少異なります。HTML タグの種類はおおまかに分類すると図①のようになります。HTML 2.0 というのは現在確定しているHTML の仕様で、3.0 はまだ検討段階なのですが、最近のWWW ブラウザーはこれを先取りして取り入れているものも増えています。

Netscape は、独自のタグを数多く追加しています。この独自のNetscape 拡張タグのために、非常に多彩な表現ができるようになり、美しいWWW ページがたくさん作られるようになりました。その反面、独自のタグを使った場合にはNetscape 以外のWWW ブラウザーでは同じように表示されないことを覚えておく必要があります（MS Internet Explorer などNetscape 拡張タグを認識するものもあります）。今後の説明ではこれらの種類が混在してきますので、別表（表①）でHTML の種類を確認したうえで使用するようになしてください。

改行する

HTML では、特に指定しない限り、改行を行いません。HTML ファイル内に改行を入れていても、WWW ブラウザーでは無視されて表示されます。

改行をするためには、その場所に
 というタグを入れます。

段落を変えるなど、1 行空けたい場合には

川添 歩（かわぞえあゆむ）
アクセス株式会社 <http://www.axes.co.jp/>

第2回 基本的なタグを覚えよう

ホームページ制作の手順とHTML の約束事がだいたい理解できたら、次はいくつかの基本的なタグを実際を使ってみることにしましょう。タグの種類はそれほど多くないので、すべてを覚えることはありません。必要に応じて本記事を参照していただければいいでしょう。

<P> タグ (Paragraph = 「段落」の略) を入れます。

なお、複数の改行を入れたい場合は
をその数だけ入れます。<P>は複数入れても1行空きにしかありません。

文字の指定

意外に思われるかもしれませんが、WWWページに表示される文字の書体 (フォント) や大きさは、基本的には見る側がWWWブラウザで設定します。これはHTMLがもともと「ここが大見出し」「ここが小見出し」「ここが本文」といった指定、つまり文章の各部が持つ意味だけを記述するためのものだったことによります。そのため文字の書体を指定することは今のところできません。

文字の大きさ

文字の大きさは、見出しのランクを指定することで変更することができます。

見出しの指定は<H1> というタグで行います。HはHeading (見出し) の略です。Hの

あとの数字は1から6までを使うことができ、これがランクを示します。1が最も上位の見出しになり、ふつう最も大きな字で表示されます。

Netscape 拡張タグでは見出しの指定のほかに、 という形で、文字の大きさを直接指定することもできます。数字は1から7までが使い、7が最も大きな文字になります。<H1>の指定とは数字の順番が逆になりますので注意してください。

また、現在の文字の大きさから相対的に指定することもできます。その場合は、

```
<FONT SIZE=+2>
```

```
<FONT SIZE=-1>
```

のようにします。

<H1> といった見出しを指定した場合には、表示される際に前後に必ず改行が入ることも覚えておいてください。

文字のスタイル

特定の文字列を強調したい場合は、太字や斜体の指定をすることができます。指定の仕

方にはやはり意味によるものと、直接指定するものがあります。

一般的には、書くのが簡単なこともあって、直接的な指定である (Bold=太字) や<I> (Italic=斜体) が使われています。「意味を記述する」というHTMLの基本に忠実に書くのであれば、 (通常は太字になる) や (通常は斜体になる) などを使うこととなります。

文字の種類

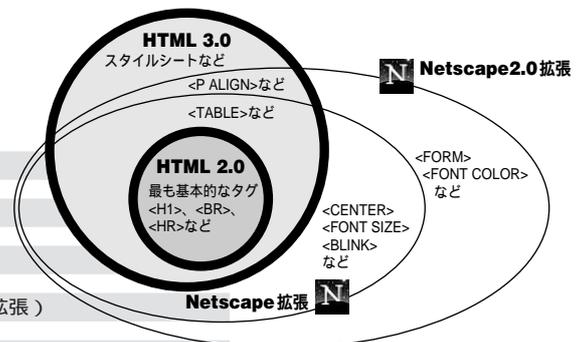
書体の指定はできませんが、表などで桁を揃えたいのために、等幅フォントにする指定はできます。その場合は<TT> タグを使います。

文字の色

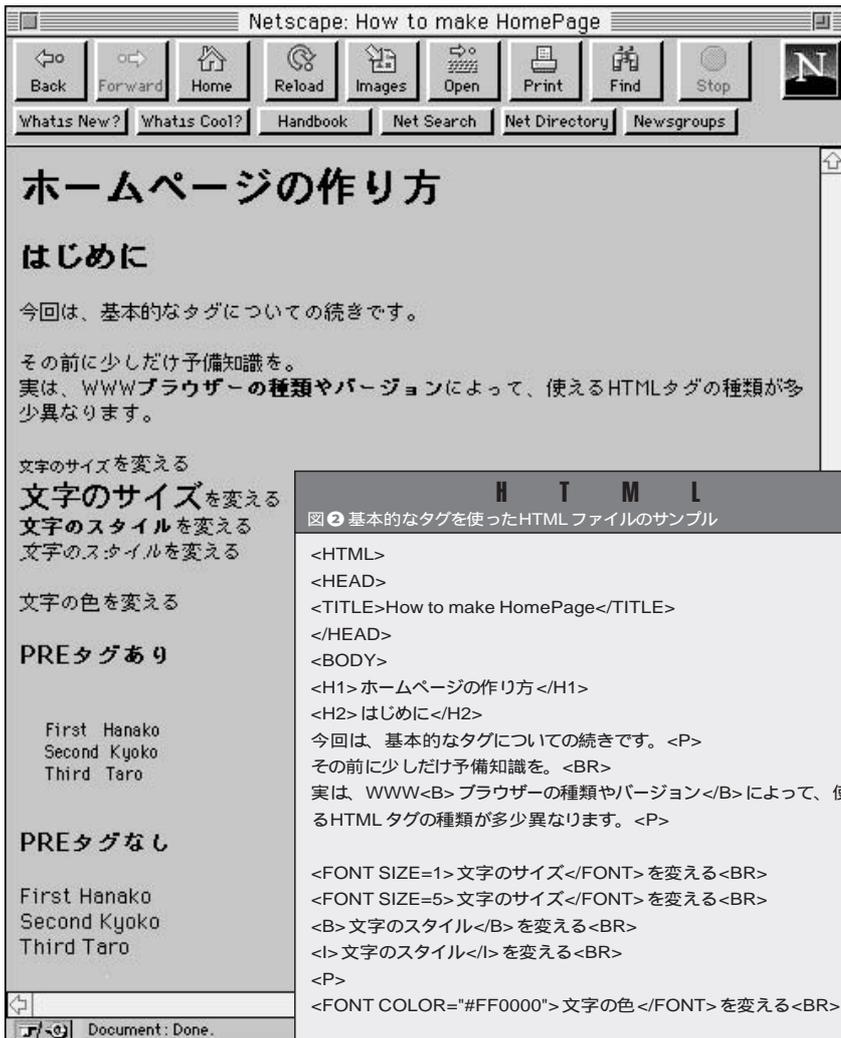
何も指定しないと、通常の文字は黒、リンクを張ったところは青、すでに行ったリンクは紫で表示されますが、これらの色を変更することもできます。これはHTML3.0 タグで、背景に色や壁紙を指定できるのに対応したもの

表① 今回あつかうタグ

 	改行を挿入
<P>	段落を変える (改行 2 つ)
<Hn> ~ </Hn>	見出し指定
 ~ 	フォントサイズ指定 (Netscape 拡張)
 ~ 	太字指定
<I> ~ </I>	斜体指定
 ~ 	強い強調 (通常太字で表示)
 ~ 	強調 (通常斜体で表示)
 ~ 	フォントカラー指定 (Netscape2.0 拡張)
<TT> ~ </TT>	等幅フォント指定
<PRE> ~ </PRE>	そのままの表示



図① HTML のバージョンと使えるタグの種類



図⑨ サンプルHTMLの表示例

```

H T M L
図⑧ 基本的なタグを使ったHTMLファイルのサンプル
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>How to make HomePage</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<H1>ホームページの作り方</H1>
<H2>はじめに</H2>
今回は、基本的なタグについての続きです。<P>
その前に少しだけ予備知識を。<BR>
実は、WWW<B>ブラウザーの種類やバージョン</B>によって、使えるHTMLタグの種類が多少異なります。<P>

<FONT SIZE=1>文字のサイズ</FONT>を変える<BR>
<FONT SIZE=5>文字のサイズ</FONT>を変える<BR>
<B>文字のスタイル</B>を変える<BR>
<I>文字のスタイル</I>を変える<BR>
<P>
<FONT COLOR="#FF0000">文字の色</FONT>を変える<BR>

<H3>PREタグあり</H3>
<PRE>
  First Hanako
  Second Kyoko
  Third Taro
</PRE>
<BR>
<H3>PREタグなし</H3>
  First Hanako<BR>
  Second Kyoko<BR>
  Third Taro<BR>
</BODY>
</HTML>

```



です。詳しい指定の仕方は次ページの解説を参照してください。

さらに、Netscape 2.0では任意の文字に好きな色をつけることができるタグが追加されました。サイズの指定と同様、FONTタグを使って、

```

<FONT COLOR="#FF0000"> ~
</FONT>

```

のように指定します。SIZEと組み合わせる場合は、

```

<FONT SIZE=2 COLOR="#FF0000"> ~
</FONT>

```

のように書きます。

テキストをそのまま表示する

改行やスペースを含めて、元のテキストファイルそのままに表示させるには、PREタグを使います。多くのテキストをホームページにしたい場合、細かい指定がいらないのであればこのタグが便利です。等幅フォントで表示されます。

「そのまま」の表示なので、行をウィンドウの端で自動的に折り返すことはしませんから、各行の後ろに改行を入れておく必要があります。

図⑨は今回解説したタグを使って作成したHTMLで、これをブラウザーで表示したものが図⑩です。自分でも設定を変えてみてブラウザーにどう表示されるのか試してみてください。

C
O
L
U
M
N

「主張する本棚」

個人のホームページによくあるもののひとつに、“My Favorite Sites”。すなわち自分のお気に入りサイトのリストがある。多くの場合はリンクを張ったサイト名が並んでいるだけのものだ。このリストにはたいがい、自分がよく行くサイト、ときどき行っては楽しむサイトを連ねておく。これは現実の世界で言えば、自分の本棚に並んだ本の背を見ているようなものだ。本棚の中で見やすい場所に並べる本というのは、必ずしもよく使

ったりすぐに役に立つ本ばかりではない。自分がとても気に入っている本を目立つところに置いておき、ときどきひっぱり出してはパラパラと読み返すために置いておくこともあるのだ。

本棚にどのような本が並んでいるかということが、その所有者の興味や関心を如実に表すことになる。だから私も他人の家を訪問した際には、本棚があるとすぐに目がいて、それをついじっくり眺めてしまう。また逆に親しい友人が遊びに来てくれた

C O L O R

色の指定は16進数の組み合わせ

文字の色の指定方法

・一般の文字色

<BODY TEXT="#hhhhhh">

・リンク部分の文字色

<BODY LINK="#hhhhhh">

・既訪のリンク部分の文字色

<BODY VLINK="#hhhhhh">

・背景(バックグラウンド)の色

<BODY BGCOLOR="#hhhhhh">

これらを組み合わせるときには、

```
<BODY TEXT="#hhhhhh"
LINK="#hhhhhh" VLINK="#hhhhhh"
BGCOLOR="#hhhhhh">
```

のようにします。

・特定部分の文字の色

ページ全部にわたる指定ではなく、部分指定はタグを使って次のようにします。

 この文字の色が変わります

色の選び方

色を指定するhの部分には16進数が入ります。つまり色は6桁の16進数(0~F)で指定します。光の三原色である赤・緑・青はそれぞれ256階調を持つので、3色の組み合わせで256 x 256 x 256 1670万色から選ぶことができるのです(図4)。

・黒 = 3色とも色が無い状態なのでそれぞれを0にして#000000

・赤 = 赤だけを最も濃くすることになるので、

#6DB29C



R G B
Red Green Blue
赤 緑 青

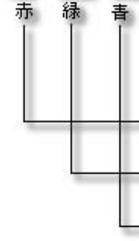


図4 16進数例で色を指定するしくみ

赤・緑・青それぞれ2桁ずつの16進数で色を指定する。00はその色が無いということ、FF(10進数の255)はその色を最も濃く混ぜるとのことだ。光の三原色なので、目的の色を指定するのはなかなか難しいが、色を指定するための専用のツールもフリーソフトやシェアウェアで存在する。また、下記のようにシステムに付属のツールを使っても簡単にできる。



図5 Windows95での計算例

Windows95でならば「色の指定」ウィンドウで色を選び、右下の「赤」「緑」「青」の数字を16進数に変換すればよい。10進数を16進数に変換するには、電卓を「関数電卓」にして「10進」ボタンを押した状態で数字を入れ、「16進」ボタンを押して、表示窓の16進数を読みとる。

#FF0000

・黄 = 赤と緑のかけ合わせになるので、

#FFFF00

・灰色 = 3色の色をそれぞれ等しくやや暗めにすればよいので、#777777

・うす緑色 = 赤を薄く、緑を濃いめに、青をやや混ぜて、#25D095

目的の色に合致する16進数を見つけるのは面倒なので、そのためのサイトやツールがいろいろあります。Windows 95では「画面のプロパティ」とアクセサリ内の「電卓」で計

算ができます(図6)。Macintoshでは、HexColor(フリーウェア)やHTML Color Picker(シェアウェア)などで手軽に16進数を得ることができます(図7)。

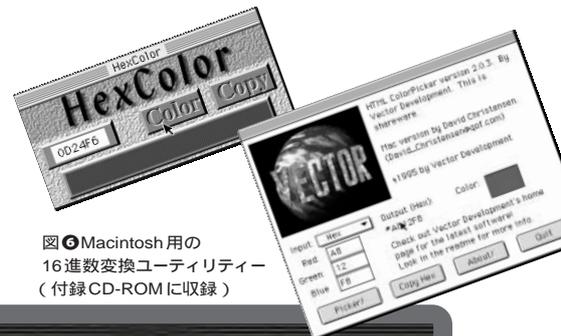


図6 Macintosh用の16進数変換ユーティリティ(付録CD-ROMに収録)

ときに、自分の本欄を見てもらうのも、自分のことを理解してもらおうための大切な要素になるから、嫌いではない。

つまり本欄は、その所有者の表現のひとつなのだ。同じように、お気に入りのサイトのリストも、その人の興味や関心を示す表現にほかならない。本欄と異なる部分があるとすれば、本は背景紙を見ればタイトルや著者名から、どのような内容の本であるのが大方察しがつくのに、サイト名を

見ただけではそれがどのようなサイトなのかわりにくいという点だろう。また、本欄に並べられた本を題材にして所有者と訪問者がコミュニケーションをはかるといったことも、Webでは難しい。だから、もし自分のお気に入りサイトのリストを自己表現として考えるのであれば、そのサイトをなぜ自分がリストアップしているか、その理由を少しでもいいから書くべきだ。それが自分の興味を示す表現や主張になる。見ている人はクリック

すれば行けるのだから、そのサイトの説明を事細かにする必要はない。主観的に、個人的に書けばいい。個人のホームページを訪れる人は、少なからずそれを作った人に興味を抱いているのだから、その興味に応えることにもなる。こんなちょっとした工夫で、リンクサイトのただのリストが「主張する本欄」となって、あなたという情報を発信し始めるだろう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp